

思考力、判断力、表現力等を働かせ、自分の思いを書きことができる児童の育成

—第6学年における「スモールステップ型学習」「活用型学習」の開発とルーブリックの活用—

山崎 早苗 (千葉市立大宮小学校)

[研修先 千葉大学教育学部]

《研究の概要》

本研究は、外国語科第6学年の「書くこと」の言語活動をゴールとした単元で「スモールステップ型学習」と「活用型学習」を開発・実践し、その有効性を検証するものである。実践の結果、児童が「思考力、判断力、表現力等」を働かせ、目的や場面、状況などに応じて内容を工夫して書くようになり、「スモールステップ型学習」に基づいて「活用型学習」を行うことの実効性が明らかとなった。また、ルーブリックを児童と教師が協同で作成し活用することや、イメージマップ・教師の支援・グループ活動といった手立ての実効性が明らかとなった。

1 問題の所在

学習指導要領の改訂を受け、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入された。このことにより、小学校において外国語を「読むこと」「書くこと」の言語活動が行われるようになった。

学習指導要領では「思考力、判断力、表現力等」の育成が重視されている。外国語科では相手に問いかけたり情報を付加したりしながら会話する活動が行われ、児童が思考、判断し表現することが求められる。一方、「書くこと」では語句や表現を書き写したり例文の一部を別の語に替えて書いたりする活動が行われるため、児童が思考、判断し表現できる部分が限られている。本校における児童の意識調査から、読み手によく伝わるように内容を工夫して書くことをほとんどの児童が意識していないという課題が明らかになった。中学校では、求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫が指導される。小学校から中学校への学びの接続のため、自分の思いを書いて表現できる児童を育成する学習法について研究する必要があると考えた。

書くことの活動と併せて、評価にも課題がある。「小学校の英語教育に関する教員意識調査2021夏」(株式会社イーオン 2021)では、「児童の評価の仕方」が課題のトップに挙げられた。「千葉市学校教育の課題 21世紀を拓く」において、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価の実践を通じた学習や評価方法等の工夫改善が課題に挙げられている。そこで、「書くことの活動」と「評価」の両方の課題を解決するため、ルーブリック

を活用した学習法の研究が必要であると考えた。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

「思考力、判断力、表現力等」を働かせ、自分の思いを書きことができる児童を育成することを目標とし、「スモールステップ型学習」と「活用型学習」を開発・実践する。「スモールステップ型学習」に基づいて「活用型学習」を行うことと、ルーブリックを活用することの実効性を明らかにする。

(2) 研究の方法

研究主題に関する基礎的理論研究	4～8月
検証授業の構想	7～9月
事前意識調査・プレテスト(文構造等)	8月
検証授業実践(スモールステップ型学習)	8～9月
プレテスト(書くこと)・単元後の意識調査	9月
検証授業実践(活用型学習)	9～10月
単元後の意識調査・事後意識調査・ポストテスト	10月
検証授業の分析と考察	10～12月

3 研究の内容

(1) 研究主題に関する基礎的理論研究

① 「書くこと」の「思考力、判断力、表現力等」

小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編(以下「学習指導要領解説」)より「書くこと」の「思考力、判断力、表現力等」の目標は「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、(中略)音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を(中略)語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや

気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。」ことである。「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」(2020)の評価例より、「書くこと」の「思考・判断・表現」で十分満足できる状況の特徴は[資料1]の3点にまとめられる。

- ・文字と文字、語と語の間隔を適切に空けて書くこと
- ・適切な語を選んで自分の考えや気持ちを書くこと
- ・まとまりのある文章になるよう文の順を意識して書くこと

[資料1]十分満足できる状況の特徴

柴田・横田(2014)は「文章がまとまるためには、一貫性(coherence)と結束性(cohesion)がある文章構成を意識することが大切」であり、一貫性とは文がトピックに関係する内容を表すこと、結束性とは文の順番であると述べている。中学校学習指導要領解説外国語編では「主題—根拠や具体—主題の言い換えや要約」という文章構成例を示している。本研究では「テーマの文—根拠や具体—まとめの文」と表す。

以上より本研究では「書くこと」における「思考力、判断力、表現力等」を[資料2]のように定義する。

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて
- ・文字と文字、語と語の間隔を適切に空けて書くこと
- ・「テーマの文—根拠や具体—まとめの文」という文章構成になるように書くこと
- ・一貫性のある内容を書くこと
- ・文の順(結束性)を意識して書くこと
- ・適切な語を選んで考えや気持ちを書くこと
- ・語順を意識しながら書くこと

[資料2]書くことの思考力、判断力、表現力等の定義

②「思考力、判断力、表現力等」について

学習指導要領解説では「思考力、判断力、表現力等」を高めるために「児童が①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う」というプロセスの重要性を述べている。中央教育審議会「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」(2016)の資料では「考えの形成、整理」について[資料3]の三つの力を示している。よって、

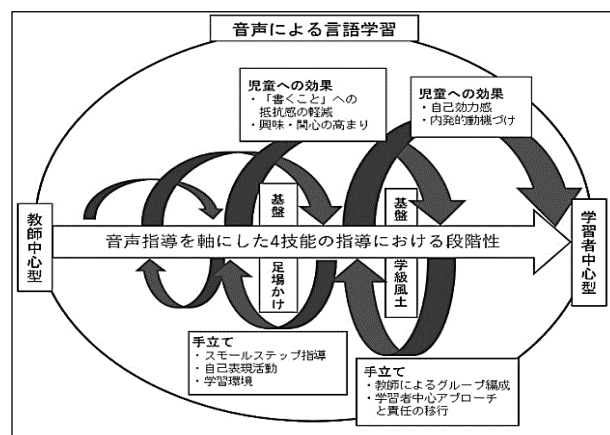
- 目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力
- 知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力
- 形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力

[資料3]「考えの形成、整理」の三つの力

本研究では、学習指導要領解説に示されているプロセスと、三つの力の育成を目的とした活動を取り入れた。

③「書くこと」について

川上・深見(2021)は「書くこと」の指導方略をモデル化した([図1])。第一のサイクルで理解可能なインプットを与える活動、第二のサイクルでスモールステップ指導・自己表現活動を行う。第三のサイクルでは教師によるグループ編成・学習者中心アプローチと責任の移行により児童の自律的な学習につながる。本研究では第二のサイクルを「スモールステップ型学習」に、第三のサイクルを「活用型学習」に取り入れた。



[図1]「書くこと」に関する指導方略プロセスのモデル (川上・深見(2021)による)

向後(2019)は、①話題の導入②話題に関する情報の取得③伝えようとすることの整理④スピーキング⑤ライティングという活動の流れを示している。上山(2020)は書く前にできる支援にアイデア出しとアイデアの選択と順序付けを挙げ、前者の例としてモデルの提示や書く内容の相談、マッピングを示している。本研究の二つの学習法に、向後の活動の流れと上山の支援例を取り入れた。活用型学習で内容改善に向けて話し合う活動を取り入れた。このことにより、書く内容の相談と同等の効果を上げることができると考えた。

「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(2017)は、単元を通じて毎時間少しずつ書く活動を行うことを指導上の留意点に挙げている。本研究のスモールステップ型学習で、1文ずつ書く活動を行った。

④ルーブリックについて

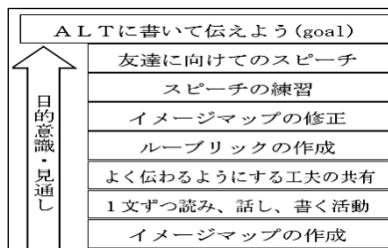
ルーブリックとは「成功の度合いを示す数レベルの尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス

の特徴を記した記述語から成る評価基準法」(西岡 2019)である。蛭田(2017)はルーブリックの作成により児童に付けた力や指導のねらいが明確になり、児童への明示により児童が明確な見通しをもち客観的な自己評価が可能になると述べている。泉ら(2018)は「生徒の意見も入れつつ協同で開発することが望ましい」としている。本研究ではルーブリックを児童と協同で作成し、学習中に活用できるようにした。

(2) 開発した二つの学習法について

① スモールステップ型学習

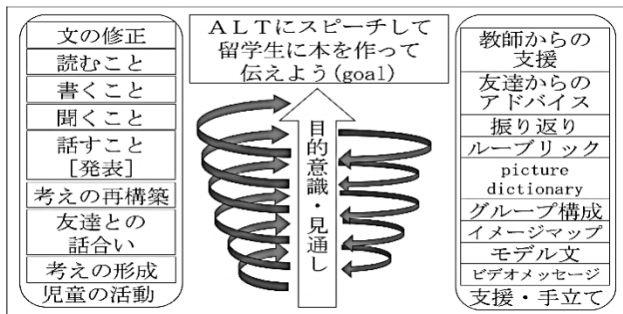
学級で共通理解を図りながら段階的に学ぶ学習法である([図2])。よく伝わるようにする工夫を考え共有すること、ルーブリックの作成、イメージマップの修正と一歩ずつ学びを進めながら、児童の「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指す。単元前半で1文ずつ書き、単元末にまとまりのある文章を書くことで、児童の書く活動への自信を高める。



【図2】 スモールステップ型学習

② 活用型学習

スモールステップ型学習を通して身に付けた「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を働かせ、児童が主体的に学ぶ学習法である([図3])。単元末の学習活動に向けてグループで話し合いを繰り返し、考えの形成・整理・再構築をすることで、児童の「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指す。



【図3】 活用型学習

(3) 検証授業

対象 千葉市立A小学校 第6学年 26人

指導者 T1:授業者 T2:AL T

① スモールステップ型学習 (Lesson 6)

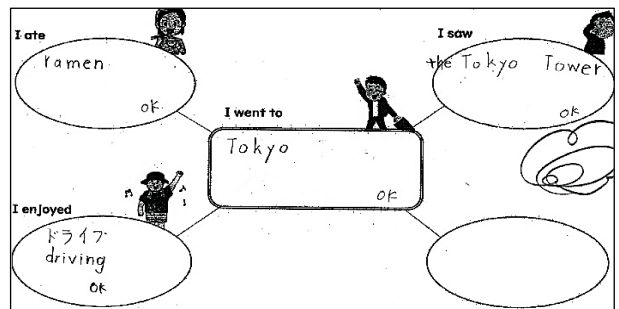
「自分のことをもっとよく知ってもらえるように、夏休みの思い出を友達に話したりAL Tに書いたりして伝えよう。」というゴールを設定し[表1]を作成した。

【表1】 Lesson 6 の単元計画

時	学習内容
1 (T T)	指導者の夏休みの思い出を聞き、思い出を伝える表現を知り、単元の見通しをもつ。
2	I went to ~. / I saw ~. という表現を読んだり話したり書いたりする。
3 (T T)	I ate ~. / I enjoyed ~. という表現を読んだり話したり書いたりする。
4	相手によく伝わるようにする工夫を考え、ルーブリックを作成する。
5	相手によく伝わるようにイメージマップを修正し、スピーチの練習をする。
6	友達にスピーチし伝える。
7	AL Tに書いて伝える。

【第1時】単元の見通しの共有とイメージマップ作成

AL Tの夏休みの思い出を聞き、単元の見通しを共有した。思い出を伝える表現に慣れ親しんだあと、自分の思い出をイメージマップに表した([資料4])。



【資料4】 児童Aの第1時のイメージマップ

【第2・3時】1文ずつ読み、話し、書く活動

夏休みの思い出を伝える表現を1文ずつ読み、話し、書く活動を行った。第3時の振り返りには英語が書けた喜びが9件と、児童自身の次のめあてが23件(そのうち、内容面に関する記述が2件)記述されていた。

【第4時】ルーブリックの作成

相手によく伝わるようにする工夫を各自で考え、学級で共有した。児童が考えた工夫と、教師が提示した文章から気付いたことを花丸・◎・○に分類し、[表2]

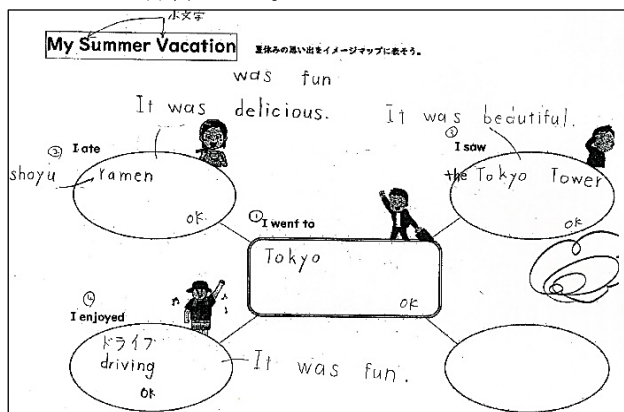
【表2】Lesson 6 のルーブリック

	正しさ	内容	話すとき	書くとき
◎		「◎」に加えて ・質問	「◎」に加えて ・ジェスチャー	
○	正しい表現	「○」に加えて ・テーマの文 ・感想や様子 ・くわしく ・いろいろな表現 ・単語	「○」に加えて ・細かい発音 ・ていねい ・強弱	・大文字と小文字 ・ピリオド ・スペース ・四線 に気を付けて 書いている
○	だいたい 正しい表現	・言葉の順 ・文の順 ・ふさわしい言葉	・聞こえやすい声 ・ゆっくり ・はっきり ・文と文の間で 一呼吸	・大文字と小文字 ・ピリオド ・スペース ・四線 に気を付けて だいたい書いている
△		夏休みの思い出を話したり書き写したりすることがまだむずかしい。	伝わるように話すことがまだむずかしい。	読めるように書き写すことがまだむずかしい。

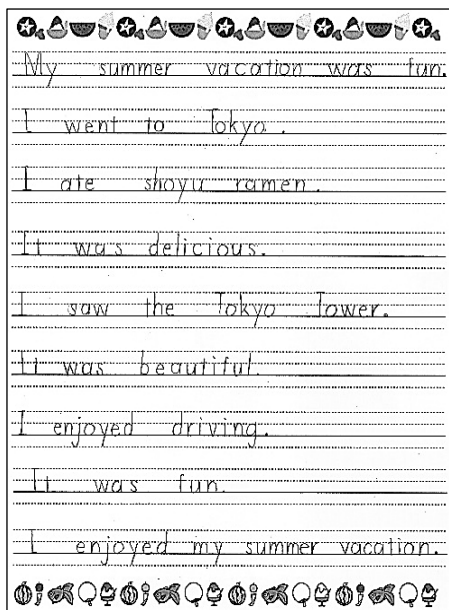
のルーブリックを児童と教師が協同で作成した。振り返りには内容に関するめあてが16件見られ、「感想も入れてくわしく説明をしたい。」などと記述されていた。

【第5時】イメージマップの修正とスピーチの練習

ルーブリックを参考にイメージマップを修正し、考えの再構築をした。児童が表現した地名・色・大きさ・味・数を、詳しく説明する際のポイントとして共有した。児童Aはテーマの文を書くためのヒント・味・感想を表す文三つ・順番を加えた（[資料5]）。その後、スピーチの練習をした。



【資料5】児童Aの第5時のイメージマップ



【資料6】児童Aのワークシート

【第6時】友達へのスピーチ

4人組で夏休みの思い出を伝え合った。

【第7時】清書

イメージマップや第2・3時のプリントを参考に清書した（[資料6]）。

単元後の意

識調査の「Lesson 6を学習する前と比べて、自分のことをよく知ってもらえるように英語で書くことができるようになったと思いますか。」という設問に24人が肯定的に答えた。「自分のことをよく知ってもらえるように英語で書くために、できるようになったことは何ですか。」という設問に[資料7]の回答が主に見られた。

- ・行ったとか食べたとか書けるようになった。
- ・感想や内容をくわしくした。
- ・味や数などを文に入れて、より自分のことをくわしく書いた。
- ・スペースや字の形に気をつけて書いた。

【資料7】Lesson 6でできるようになったこと

役立った学習活動を複数回答可能なアンケートで調査した。[資料8]は上位六つである。約9割の児童が、イメージマップが有効だと感じていた。2・4番目の項目からは、ルーブリックを協同で作成する過程を有効だと感じた児童が多いことが分かった。

- ・夏休みにしたことをイメージマップに書いたこと(23人)
- ・相手によく伝わるようにするためのポイントを考えたこと(21人)
- ・夏休みにしたことを表す表現を練習したこと(20人)
- ・ルーブリックをクラスで考えたこと(17人)
- ・ALTや授業者の夏休みの思い出を聞いたこと(16人)
- ・発表の練習をしたこと(16人)

【資料8】Lesson 6で役立った学習活動

②活用型学習 (Lesson 9)

「自分のことや学校行事についてよく知ってもらえるよう、思い出の学校行事についてALTにスピーチをし、留学生に本を作って伝えよう。」というゴールを設定し、[表3]を作成した。留学生とは、日本の大学に通っている外国人の学生である。

【表3】Lesson 9の単元計画

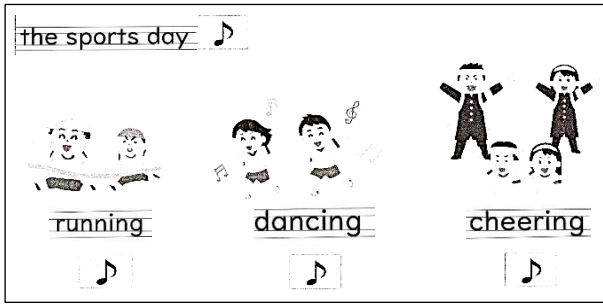
時	学習内容
1 (TT)	ALTや留学生の思い出の学校行事について知り、単元の見通しをもつ。
2	ルーブリックを共有し、思い出の学校行事についてイメージマップに表す。
3 (TT)	思い出の学校行事についてイメージマップに表し、話し合っってイメージマップを修正する。
4	思い出の学校行事について話し、イメージマップを修正する。
5 (TT)	ALTにスピーチし伝える。
6	イメージマップを修正し、思い出の学校行事について書く。
7 (TT)	思い出の学校行事について書き、友達のワークシートを読んで感想を伝え合う。
8	文を推敲し、写真や絵と共に台紙に貼る。友達の本を読んで感想を伝え合う。

【第1時】単元の見通しの共有と行事の選択

ALTと留学生の思い出の学校行事について読み聞かせした。単元の見通しを共有し、学校行事の表現に慣れ親しみ、伝えたい行事について日本語で考えを書いた。これに基づき、授業者が[資料9]の picture dictionary (行事に関する語や表現を絵・写真・文字・音声で示した物) と [資料10] のシール (既習事項の主語・動詞が載ったシール) を第2時まで作成した。

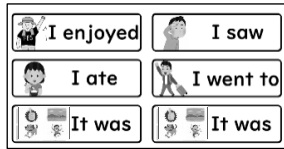
【第2時】考えの形成

ルーブリックに「外国の人に伝わるように」「まとめの文」という2項目を児童と話し合っって加え、本単元

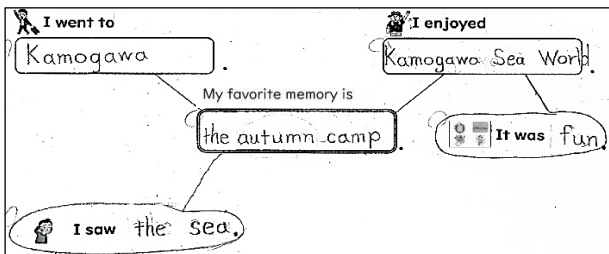


【資料9】 picture dictionary

で使う既習事項を児童と抽出した。その後 [資料9] や [資料10]、教科書を活用し、“My favorite memory is ~.” という表現と枠が三つ書かれたイメージマップに考えを形成した ([資料11])。



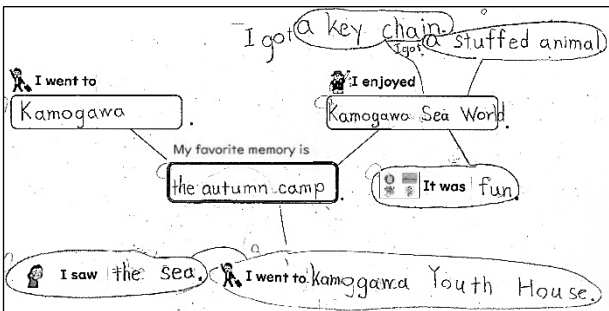
【資料10】 シール



【資料11】 児童Bの第2時のイメージマップ

【第3時】 イメージマップへの追加と話し合い

第2時に続きイメージマップに考えを形成した。その後、グループで話し合い、イメージマップを修正した。児童Bは行った場所と、友達からのアドバイスを受けて買った物を書き加えた ([資料12])。指導者は個別支援と中間指導を行った。



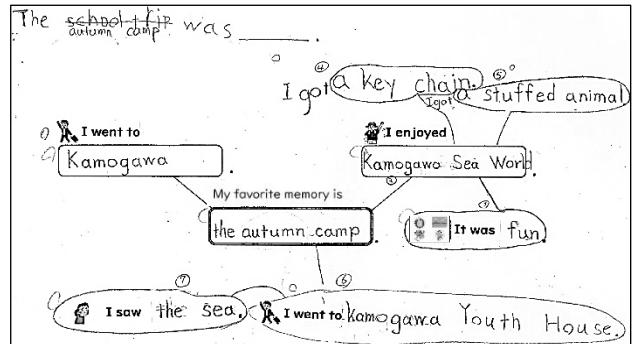
【資料12】 児童Bの第3時のイメージマップ

児童の表現は全体で 92 文増加した。振り返りには教師の個別支援 (6件)・中間指導 (5件)・友達のスピーチの内容 (3件)・友達からのアドバイス (2件)を参考に考えの再構築をしたことが記述されていた。

【第4時】 話し合いとイメージマップの修正

授業者のスピーチを聞き、話し合いの視点を共有した。

その後、グループでスピーチを聞き合い、アドバイスをし合ってイメージマップを修正した。児童の表現は全体で 31 文増加した。児童Bは順番を書き、まとめの文を書こうとしていた ([資料13])。



【資料13】 児童Bの第4時のイメージマップ

3人の児童が友達からのアドバイスにより文の順を変えた。児童Cは、先に行事について説明した後に、自分の思い出を表現するという順にした ([表4])。

【表4】 児童Cの文の順の変化

第3時	第4時
My favorite memory is the <i>kakizome</i> exhibition at the fourth grade. I got prize. I was happy. <i>Kakizome</i> is new year calligraphy. I have paper, two brushes, ink, an inkstone, a paper weight, and underlay. I enjoyed <i>kakizome</i> .	My favorite memory is the <i>kakizome</i> exhibition at the fourth grade. <i>Kakizome</i> is new year calligraphy. I have paper, two brushes, ink, an inkstone, a paper weight, and underlay. I got prize. I was happy. I enjoyed <i>kakizome</i> .

振り返りには、友達からのアドバイス (5件)・友達のスピーチ (5件)・指導者のスピーチ (1件) を参考に、考えの再構築をしたことが記述されていた。

【第5時】 ALTへのスピーチ

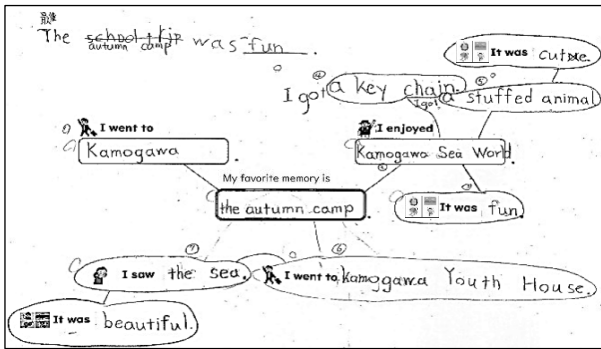
イメージマップを参考に、ALTに向けてスピーチをした。振り返りには、内容に関するめあて (22件)と書くことに関するめあて (12件)が見られた。

【第6時】 イメージマップの修正と書く活動

イメージマップを修正する時間を設けた。全体で 28 文増えた。児童Bは、ぬいぐるみや海についての感想と、まとめの文の形容詞と順番を追加した ([資料14])。その後、留意点を確認し文章を書いた ([資料15])。

他の児童の振り返りには「鴨川シーワールドは何が有名なかを書いて、行ってみたいと思ってくれるように工夫しました。」「いそ観察は感想しかなかったのを見た物を加えました。」など、読み手を意識して文章

を書いたことが記述されていた。



〔資料14〕 児童Bの第6時のイメージマップ

スライド ①
My favorite memory is the autumn camp.

スライド ②
I went to Kamogawa.

スライド ③
I enjoyed Kamogawa Sea World.

スライド ④
It was fun.

スライド ⑤
I got a key chain.

スライド ⑥
I got a stuffed animal.

スライド ⑦
It was cute.

スライド ⑧
I went to Kamogawa Youth House.

スライド ⑨
I saw the sea.

スライド ⑩
It was beautiful.

スライド ⑪
The autumn camp was fun.

〔資料15〕 児童Bのワークシート

My Favorite Memory

Name: B

My favorite memory is the autumn camp.

I went to Kamogawa.

It was beautiful.

〔資料16〕 児童Bの本

〔第7時〕書く活動
ワークシート〔資料15〕を完成させ、友達とペアで読み合った。友達からのアドバイスを受け、数名の児童が誤字脱字や行替え、ピリオドなどを修正した。

〔第8時〕本の完成
前時のワークシートを確認し、文を修正・追加する時間を設けた。全体で12文増えた。児童Bは〔資料16〕最下段の “It was beautiful.” という文を追加した。その後、ワークシートとイラスト、写真を台紙に貼り、本を完成させた。

児童Dは21文と、対象児童の中で最も多く文を書いた。質問する文や好みを表す文を書き、ぬいぐるみの種類やダンスの曲

名などを詳しく表現した〔資料17〕。

My favorite memory is the autumn camp. I went to Kamogawa. I went to Kamogawa Sea World. I was happy. I saw the killer whale show. It was beautiful. I ate a box lunch. It was delicious. I went shopping. I got a stuffed animal. It was a garden eel. Do you like garden eels? I like garden eels. I enjoyed the candlelight. I saw a magic show. It was shocking. I enjoyed drama and quiz. They were very fun. I enjoyed dancing “Dschinghis Khan”. It was fun. The autumn camp was nice.

〔資料17〕 児童Dの内容

単元後の意識調査では「Lesson 9を学習する前と比べて、自分のことや日本の学校行事についてよく知ってもらえるように英語で書くことができるようになったと思いますか。」という設問に全児童が肯定的に答えた。「自分のことや日本の学校行事についてよく知ってもらえるように英語で書くために、できるようになったことは何ですか。」という設問への回答では、書けるようになった喜びが5件、書くことに関して6件、内容に関して29件の記述があった。前単元の調査と異なる記述は〔資料18〕のとおりである。読み手に対する意識の高まりが分かる記述が9件、既習事項の活用に対する意識の高まりが分かる記述が4件見られた。

- ・読む人に分かりやすく、感想や様子、有名なもの、見られるもの、数、大きさが書けるようになった。
- ・留学生に「行ってみたいな」とか「面白そう」と思ってもらえるような文が書けた。
- ・今まで習った英語を調べながら文を書くことができるようになった。

〔資料18〕 Lesson 9でできるようになったこと

役立った学習活動を複数回答可能なアンケートで調査した。〔資料19〕は上位五つである。イメージマップやループリックというスモールステップ型学習と同じ手立てに加え、グループでの話し合いや友達のスピーチを聞く活動に関する選択肢が児童に多く選ばれていた。

- ・伝えたい行事についてイメージマップに書いたこと(22人)
- ・ループリックをもとに考えたこと(20人)
- ・好きな行事を表す表現を練習したこと(20人)
- ・グループで話し合っってイメージマップに書き加えたこと(18人)
- ・友達のスピーチを聞いたこと(17人)

〔資料19〕 Lesson 9で役立った学習活動

(4) プレテストとポストテストの結果と考察

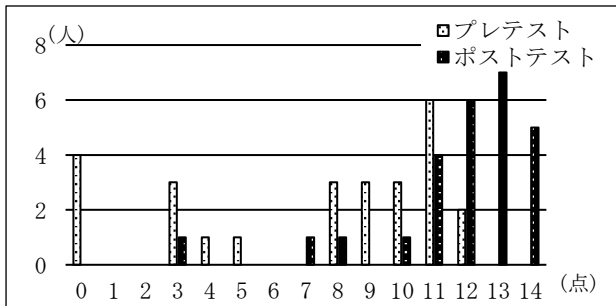
「自分のことや日本の学校行事についてよく伝わるように、思い出の学校行事の一つを選んで、ALTに英語でメッセージを書きましょう。」という課題でテストを行い、思考・判断・表現の観点についてループリック(7項目各2点、合計14点満点)を作成し評価した。

[表5] プレテストとポストテストの記述統計と平均値の差の検定結果

	語と語の間隔		テーマの文・ まとめの文		一貫性		文の順		行ったこと		好みや気持ち		語順		合計	
	プレ	ポスト	プレ	ポスト	プレ	ポスト	プレ	ポスト	プレ	ポスト	プレ	ポスト	プレ	ポスト	プレ	ポスト
平均値	1.54	1.65	0.85	1.61	1.12	1.88	1.31	1.85	0.73	1.65	0.62	1.50	1.12	1.58	7.27	11.73
標準偏差	0.75	0.62	0.36	0.49	0.85	0.42	0.95	0.46	0.76	0.68	0.68	0.75	0.89	0.63	4.13	2.44
t 値	-0.61		-7.62		-4.81		-2.90		-4.46		-4.74		-2.07			-5.32
p 値	.542		<.001		<.001		.008		<.001		<.001		.049			<.001
効果量 (r)	.12		.84		.69		.50		.67		.69		.38			.73

各項目と合計点について、プレテストとポストテスト間の平均値の差を有意水準5%で両側検定の t 検定により検討し、効果量を測定した ([表5])。結果、語と語の間隔以外の項目と合計について、プレテストに比べてポストテストのほうが得点が有意に伸びた。その中で、語順 (効果量中) 以外の項目と合計は効果量大であった。この結果から、児童が文章構成や語順に気を付けて思い出や気持ちなどを書くようになるために、本研究が有効であることが分かった。語と語の間隔については、プレテストよりポストテストの平均値が高く、標準偏差は小さくなっているが、t 検定の結果有意差は認められなかった。第5学年より学習していることであるため、有意差が表れなかったと考えられる。

[図4] はプレテストとポストテストの合計点の得点分布である。ポストテストへの得点の伸びが見られ、22人の児童の得点が14点満点中11点以上になった。本研究の結果、児童の「書くこと」における「思考力、判断力、表現力等」が育成されたことが分かった。

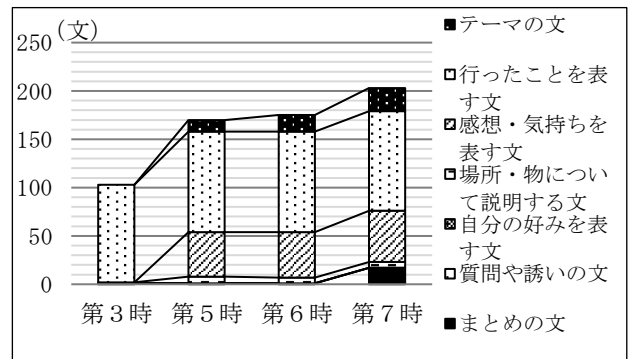


[図4] 合計点の得点分布

(5) 学習法ごとの文の変化

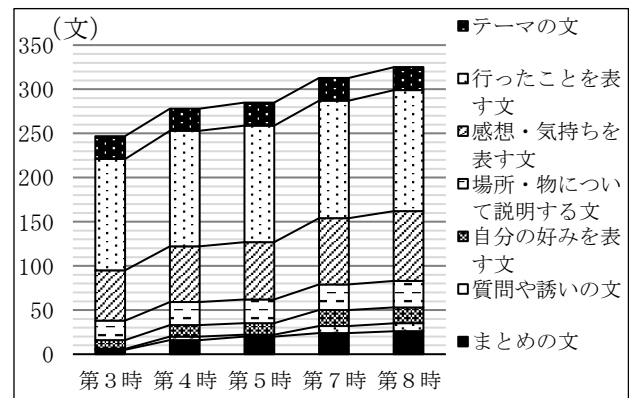
スモールステップ型学習で児童が表現した文は[図5]のように変化した。第3時と第5時の差が最も大きい。相手によく伝わるようにする工夫を各自で考え、それを学級で共有し、ルーブリックを児童と教師が協同で作成した。それに基づき第5時に児童がイメージマップを修正したことで、文の種類と数が増えた。

このことから、ルーブリックの作成・活用が考えの再構築にとって有効であることが分かった。また、第7時に一人の児童が書いていたまとめの文を教師が板書し紹介したことで、まとめの文が全体で16文増加した。児童のよい表現を教師が学級全体で紹介することで、児童の考えの再構築が促されることが分かった。



[図5] スモールステップ型学習での文の変化

活用型学習で児童が表現した文は[図6]のように変化した。自分の好みを表す文・質問や誘いの文が表れ、第3時から様々な種類の文が表れたことから、活用型学習では児童が既習事項を活用して主体的に表現していたことが分かった。単元内で比較すると、第4時・第7時に増加した文の数がその他に比べて多かった。友達と話し合う活動や友達のスピーチを聞く活動をし、イメージマップを修正する時間を設けたことで、考えの再構築が促され、文の数が増えた。グループ活動や



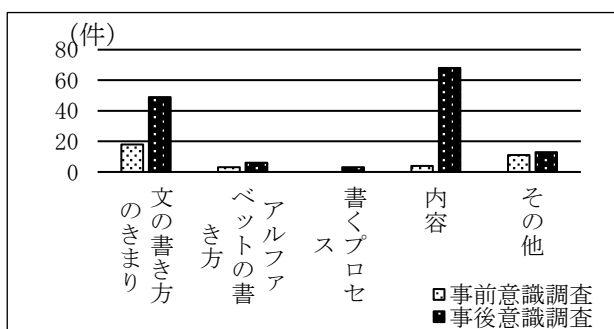
[図6] 活用型学習での文の変化

友達のスピーチを聞く活動の有効性が分かった。

(6) 事前意識調査と事後意識調査の結果と考察

事前・事後意識調査の「英語の文を書くときに、どんなことを工夫したり気を付けたりすると、読む人によく伝わるようになりますか。」という項目での記述を分類し、分析した（[[図7]]）。「文の書き方のきまり」は事前 18 件から事後 49 件に、「内容」は事前 4 件から事後 68 件に増加した。読む人によく伝わるように書くためには、文の書き方のきまりを守り内容を工夫する必要があることを、児童が理解できたと考えられる。

事後意識調査の内容に関する記述では、詳しく書くこと（19 件）、感想や様子を書くこと（19 件）、まとめの文を書くこと（6 件）、順番を意識すること（4 件）、質問する文を書くこと（4 件）、テーマの文を書くこと（2 件）という記述が見られた。これらはルーブリックの内容の項目と一致する。本研究では、ルーブリックを児童と協同で作成し、二つの学習法を通して活用した。そのことにより、児童はルーブリックの項目を



【図7】書く工夫に関する児童の記述の比較

意識できるようになったため、事後意識調査で内容に関する記述が増えたと考えられる。よって、学習中に継続してルーブリックを活用することが有効であることが分かった。

4 研究のまとめ

(1) 成果

① スモールステップ型学習と活用型学習の有効性

スモールステップ型学習に基づき活用型学習を行うことで、「書くこと」における児童の「思考力、判断力、表現力等」を育成することができた。その結果、児童はより読み手を意識し、「思考力、判断力、表現力等」を働かせ、内容を工夫して書くようになった。

② ルーブリックやその他の有効な手立て

ルーブリックを児童と協同で作成し活用することで、児童は考えを外国語で形成・整理・再構築し、表現することができた。イメージマップ・教師の支援・グループ活動といった手立ても有効であった。

(2) 課題

① より効果的なグループ活動の在り方

話し合いが効果的な手立てとなった児童がいた一方、話し合いがうまくいかなかったグループも見られた。グループ編成や話し合う視点の共有方法など、より効果的なグループ活動の在り方を研究する必要がある。

② 対象人数を増やして研究を行う必要性

本研究では 26 人を対象とした。対象人数を増やして研究し、効果が得られるか検証する必要がある。

【主な引用／参考文献等】

- ・泉恵美子・山川拓・黒川愛子・津田優子「思考力・表現力を育成するパフォーマンス課題と評価—小中の英語教育における取組—」『京都教育大学教育実践研究紀要 第18号』2018 pp. 213-222
- ・株式会社イーオン「小学校の英語教育に関する教員意識調査 2021 夏」
<https://www.aeonet.co.jp/company/information/newsrelease/2109021000.html>, (参照 2022-11-24)
- ・上山晋平『ニガテな生徒もどきどき書き出す！ 中学・高校英語ライティング指導』学陽書房 2020
- ・川上真理恵・深見俊崇「小学校外国語科における「書くこと」に関する指導方略のモデル化」『教育臨床総合研究 20』2021 pp. 63-77
- ・向後秀明『新学習指導要領が実践できる！ 中学校 英語授業パーフェクトガイド』学陽書房 2019
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【小学校 外国語・外国語活動】」東洋館出版社 2020
- ・柴田美紀・横田秀樹『英語教育の素朴な疑問 —教えるときの「思い込み」から考える—』くろしお出版 2014
- ・千葉市教育委員会「令和4年度千葉市学校教育の課題 21世紀を拓く」2022
- ・中央教育審議会「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/09/12/1377057_1_1.pdf, (参照 2022-11-24)
- ・西岡加名恵・石井英真(編著)『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』日本標準 2019
- ・蛭田勲「資質・能力ベースでの外国語の評価のポイント」菅正隆(編著)『平成29年改訂小学校教育課程実践講座外国語活動・外国語』ぎょうせい 2017 pp. 163-169
- ・文部科学省「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm, (参照 2022-11-24)
- ・文部科学省「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編」開隆堂 2017
- ・文部科学省「中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編」開隆堂 2017